

IATF16949対策支援 KR新機能で『予知保全』

■調節計を記録計でモニタリング

シリアル通信 RS-485 最大16台まで接続可能



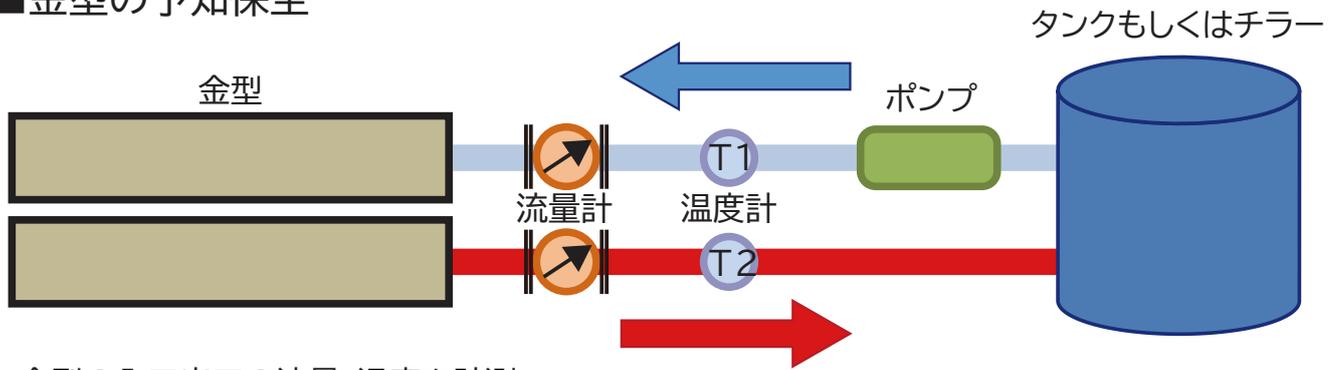
通信でPV値をKRに転送するため、調節計と記録計の指示ズレが発生しない。
入力のパラ取りや、調節計からのアナログ伝送が不要に！！



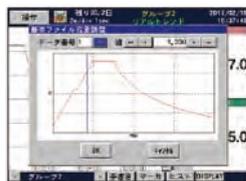
下位通信を利用して、調節計の制御結果を記録

SV値(CH62)に対し、上限値(CH65)と下限値(CH66)を演算して設定し記録。
上限値/下限値を閾値とし、PV値が範囲外となった場合、警報発生。

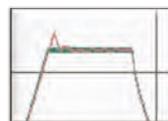
■金型の予知保全



金型の入口出口の流量・温度を計測。
詰りと冷却性能の監視・記録を行うことで歩留まり率UPに貢献。
過去比較などと組み合わせることで変動をいち早く確認可能。



①プロファイルと比較しながら記録



②幅を持ったプロファイルと比較しながら記録

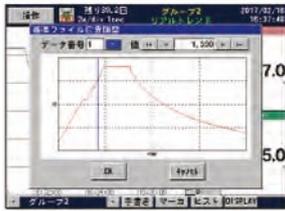


■工程判別機能:現在と過去のトレンド記録比較

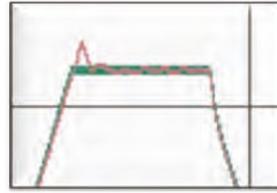
過去(理想)のプロファイル(CSV)データを選択してリアルタイムトレンド画面に表示

過去(理想)と現在の差を見える化

過去のプロファイルデータを選択しチャンネルに登録



①プロファイルと比較しながら記録



②幅を持ったプロファイルと比較しながら記録

■パルス入力管理



オプション下位通信

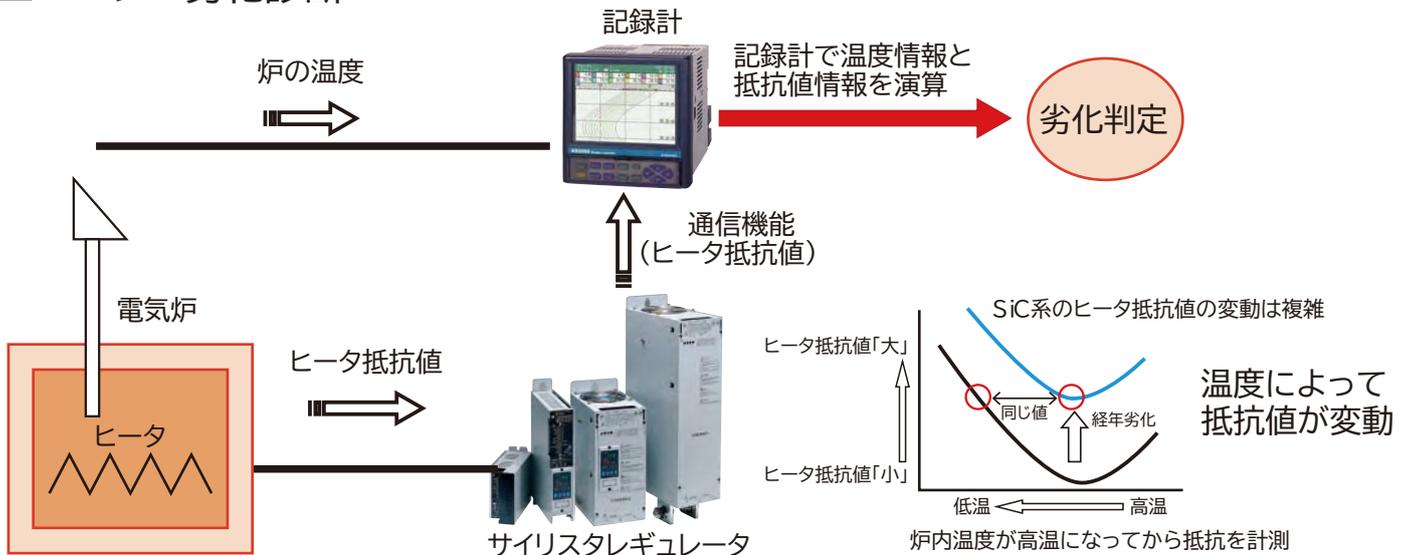


パルス出力される機器からの信号を入力し、積算することもできます。(パルスカウント、ON時間積算)

用途

工場や装置に対する電力・流量の計測・空調機器等動力の状態監視
工場などの排水・pH値などの管理
ファンやモーターの回転数管理

■ヒーター劣化診断



温度と抵抗値を記録することで同じ温度のときの抵抗を管理することが可能。
サイリスタ・KR間はRS-485で通信することで抵抗値だけでなく電力値も記録可能。

※この資料の記載内容は2018年7月現在のものです。